

# 「思い込み」が生む断絶を越えて 第1回「高齢社会2030を考える会」報告

加藤しのぶ 取材執筆

人類がまだかつて経験したことのない超高齢社会。その問題が顕在化する「2030年」の姿を具体的にイメージし、今、取り組みなければならぬことを一緒に考えませんか――。そんな呼びかけから立ち上げられたのが、大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所が主催する、「高齢社会2030を考える会」である。記念すべき第1回は2019年2月1日、「世代間交流の意義」をテーマに、参加者と講師が向き合って活発な議論が行われた。

## 「高齢者が増える社会」を考える

冒頭、遠座俊明研究員より議論の前提となる「2030年の予測データ」が紹介された。人口構成の変化、家族・世帯の変化、高齢化の進展に伴う経済格差の拡大など具体的な公的データを提示しながら、それらを支える社会保障受給額の増大に伴い公助・共助制度が将来厳しくなるという見解を示した。

提示される数字はいずれも「わずか10年余の後にここまで変化するか」という思いを強くするものだった。たとえば家族・世帯の変化について、二人以下世帯が過半を占める

現在よりさらに進み、2030年には単身世帯割合が全世界の38%近くになるという。1958年頃は5人以上の家族世帯が約半数を占めたことから考えると、急速な変化である。そのうえで、今後地域における互助の仕組みの再構築の必要性を示し、これからの社会は人と人との関係性に着目し、生きる力・活かす力(エネルギー)とそれを引き出す知恵(文化)について考えていくことが重要と話した。

続いて、日本世代間交流学会理事・兵庫県立大学教授内田勇人氏による講演「人とまちのウェルビーイング 地域の再起動に向けて」では、世代間交流はかつて祭などを通して自然に起こったが、今は仕掛けない

と生じない時代となっていると説明。アメリカでの世代間交流施策の実例、それをもとに日本の小学校で行った高齢者との交流活動の成果についてふれ、世代間交流プログラムの開発の重要性を示した。

次に、池永寛明大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所長(当時)が登場、まず「高齢社会とは何か」という演題の視座として「高齢者のための議論ではなく、高齢者がこれまでより増える社会がどうなるのか、何をなすべきかを考えるのが重要」と話した。なかでも大きな問題として、先述データにもあった家族・世帯の急速かつ劇的な変化、つまり「家族のカタチが変わる」ことによる適合不全をあげた。そして今はかつて日



事例を交えて世代間交流の重要性を語る内田氏。

人、家族、会社、地域それぞれの「分」(役割)や「縁」を軸に、個人と社会の関係をつくり直していくことが必要と締めた。

## 「知らない」「わからない」の溝を埋める

最後に、内田氏と池永氏による対

談では、多世代間交流のために伝統の伝承や「食」が担う役割や、人々が幸福を感じる背景など多岐にわたる議論された。印象に残ったのは、多世代間の相互理解をどうするかという池永氏の問いに、内田氏があげた児童養護施設での出来事だ。高齢者と子どもが交流する催しのなかで、鬼ごっこで子どもと一緒に走り回っ

ていた老人が、そこにあった水たまりをびよんと飛び越えた。それを見た子どもたちは驚いて「すごい」と言ったという。日常的に高齢者の姿を見知っていない彼らにとって、老人は水たまりさえ飛び越えられない「何もできない存在」との誤解を生んでいるのだ。同様に、高齢者は若者を「自分たちの子どもの頃と異なる存在」と思っている。互いに「知らない」という思い込みが断絶を生んでいるかもしれない、接してみれば互いにイメージが変わるのではな

## 今後の活動に向けて

いか、という内田氏の言は、単純でいてある種の核心をついているように感じた。

最後に参加者と講師間で活発な質疑応答が交わされ、2時間にわたる「高齢社会2030を考える会」は盛況のうちに第1回を終えた。

第1回「高齢社会2030を考える会」

実施日 2019年2月1日  
17:30～19:30

会場 グランフロント大阪  
大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所  
都市魅力研究室

主催 大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所

2030年の超高齢社会を見据え、持続可能な新しい“縁”社会の構築に向けて今取り組むべきことの検討を行う。第1回は日本世代間交流学会理事の内田勇人氏をゲストに迎え、「世代間交流の意義」について議論を交わした。今後も四半期ごとに開催していく予定。



内田氏(写真奥左)と池永氏(写真奥右)の対談を起点に、会場では盛んに議論が交わされた。

第1回  
人とまちのウェルビーイング  
地域の再起動に向けて  
高齢社会  
2030を考える会

参加費 事前登録  
無料 必要

2019年2月1日(金)  
17:30-19:30

会場 先着50名様  
梅田グランフロントC棟713  
大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所  
都市魅力研究室

TEL: 06-6544-1111  
URL: orz.jp/ozakage.co.jp

後日、遠座氏にあらためてこのたびの手ごたえについて話を聞くと、参加者の反応もよく、アンケートにも多数の意見や感想があがったそうである。アンケートからは2030年に働き手が減る不安、高齢者ばかりが優遇されているのでは、といった若い世代からの意見も多くあがったというが、それこそが池永氏の言う「高齢者がこれまでより増える社会を考える」ために必要な視点だろう。地域活動が盛んになる最後のチャンスとの意見もあった。

考える会は今後も四半期に一度開催する。5月28日には「認知症それがどうした!と笑い飛ばせる地域社会の未来」が開催されたが、第3回、4回は「シニアが支える」地域づくりのトライアル(仮題)、「改めて定年後問題を考える(仮題)」をテーマに、多角的に議論を展開していく予定である。